

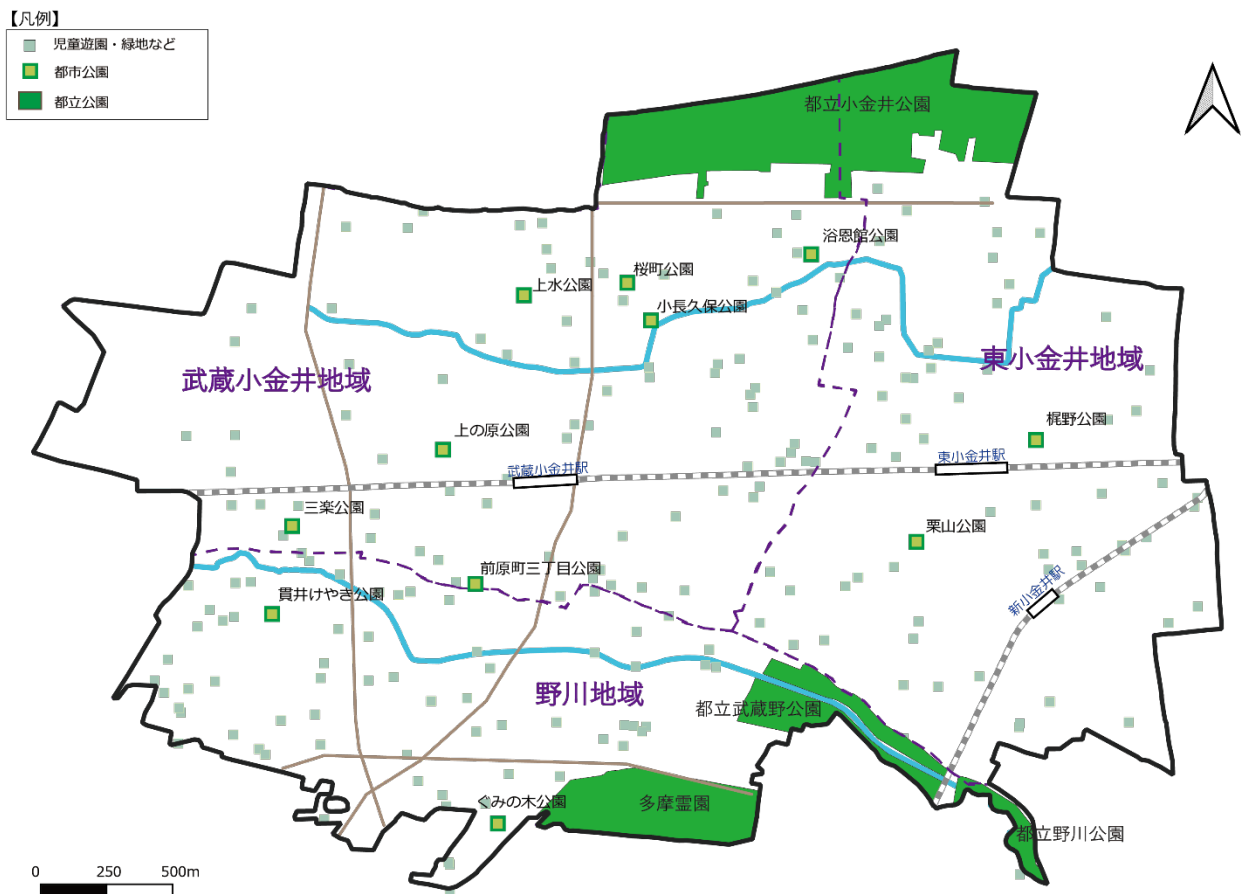
◆ そもそも、市内の公園ってどこにどのくらいあるの？

現在、市内には約 240 の公園・緑地等が整備されており、そのうち市が管理する公園・緑地等は 221 か所あります。(令和 6 年 4 月時点)

これらの公園全てにインクルーシブ※1遊具などのハード面の整備を行うことは難しいため、例えば、障がいのある方がよく利用する施設近くの公園を優先的に整備したり、老朽化した遊具の入れ替えの際にインクルーシブデザインに配慮した遊具を選ぶなど、ハード面の整備に関しては、対象公園及び遊具の適切な選定が必要であると考えています。

一方で、私たちは、公園や地域の特徴を活かしたソフト面での工夫をすることによって、遊具などのハード面の整備だけにたよらない、インクルーシブな遊び場をつくっていくことも必要であると考えており、ハード・ソフト両面の取組みによって、市内の公園をインクルーシブで、かつ、より豊かな遊び場にしていくことを目指して取り組んでいきたいと考えています。

<市内公園の配置状況>



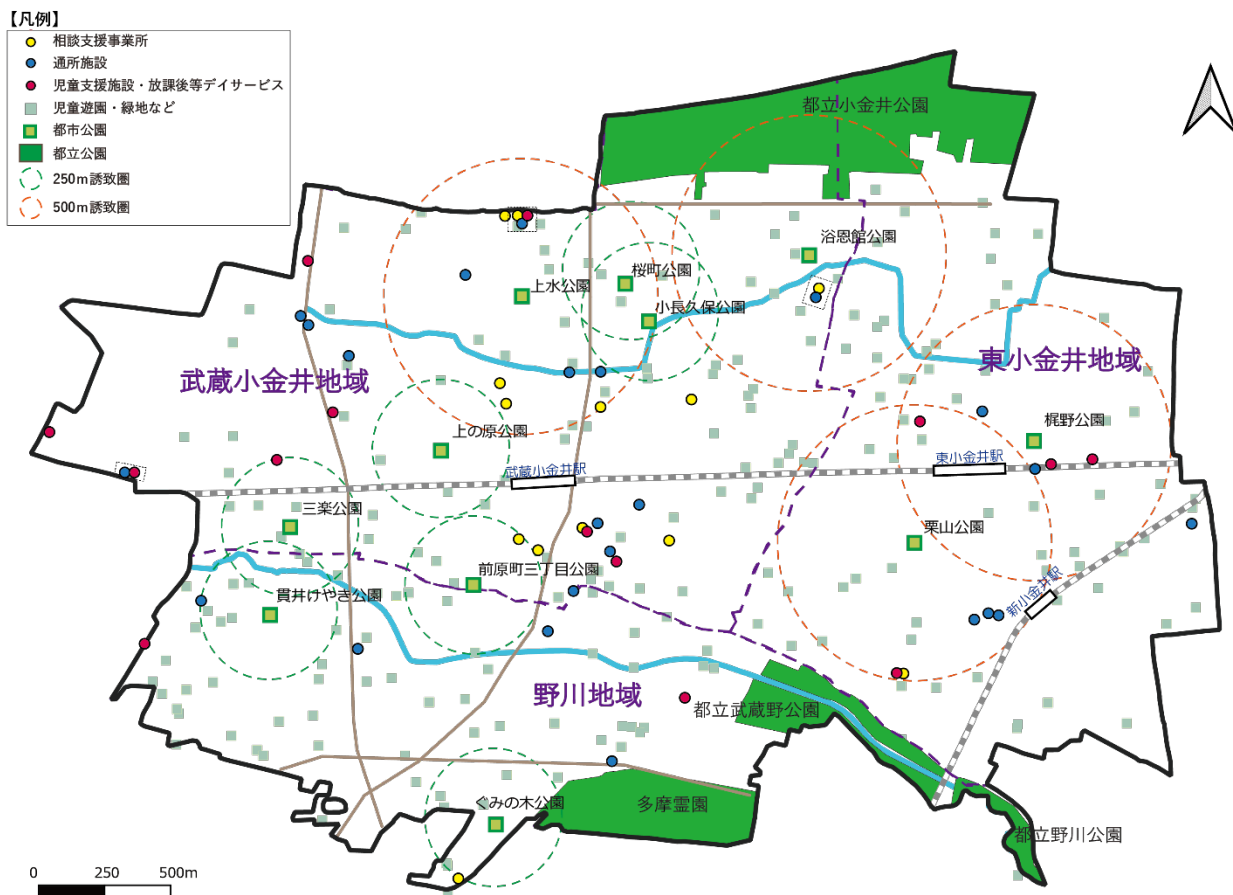
- 市内には、11 の都市公園※2を含む、221 の市が管理する公園・緑地等が整備されているほか、小金井公園、武蔵野公園、野川公園などの都立公園が立地しています。

※1 インクルーシブ：包括的を意味する英単語であり、障がいの有無、国籍、民族、人種、出身地、性別、社会的地位等により排除されることなく、あらゆる人々が共に享受する様を表した言葉。

※2 都市公園：地方自治体が都市計画区域内に設置し、都市公園法に定められる公園または緑地のこと。

◆ 障がいのある方がよく利用する施設に近い公園はどこ？

<市内公園と障がい者支援施設の距離関係>



- 梶野公園、栗山公園、上水公園の誘致圏※内に、障がい者支援施設等が比較的多く立地しています。

※誘致圏：公園を利用すると思われる近隣住民等が住んでいる、あるいは活動している範囲のこと。ここでは 2,500 m² 未満の公園・緑地等について半径 250m、10,000 m²以上の公園・緑地等について半径 500mを設定した。

◆ 障がいのある子どもが利用しやすい公園って？

これまでのアンケート調査やヒアリングなどから、遊具の整備より先に“移動環境”や、“障がい者が利用できるトイレ”などの周辺設備が整っていないと、そもそも公園に行くことができない、というご意見を多くいただいています。

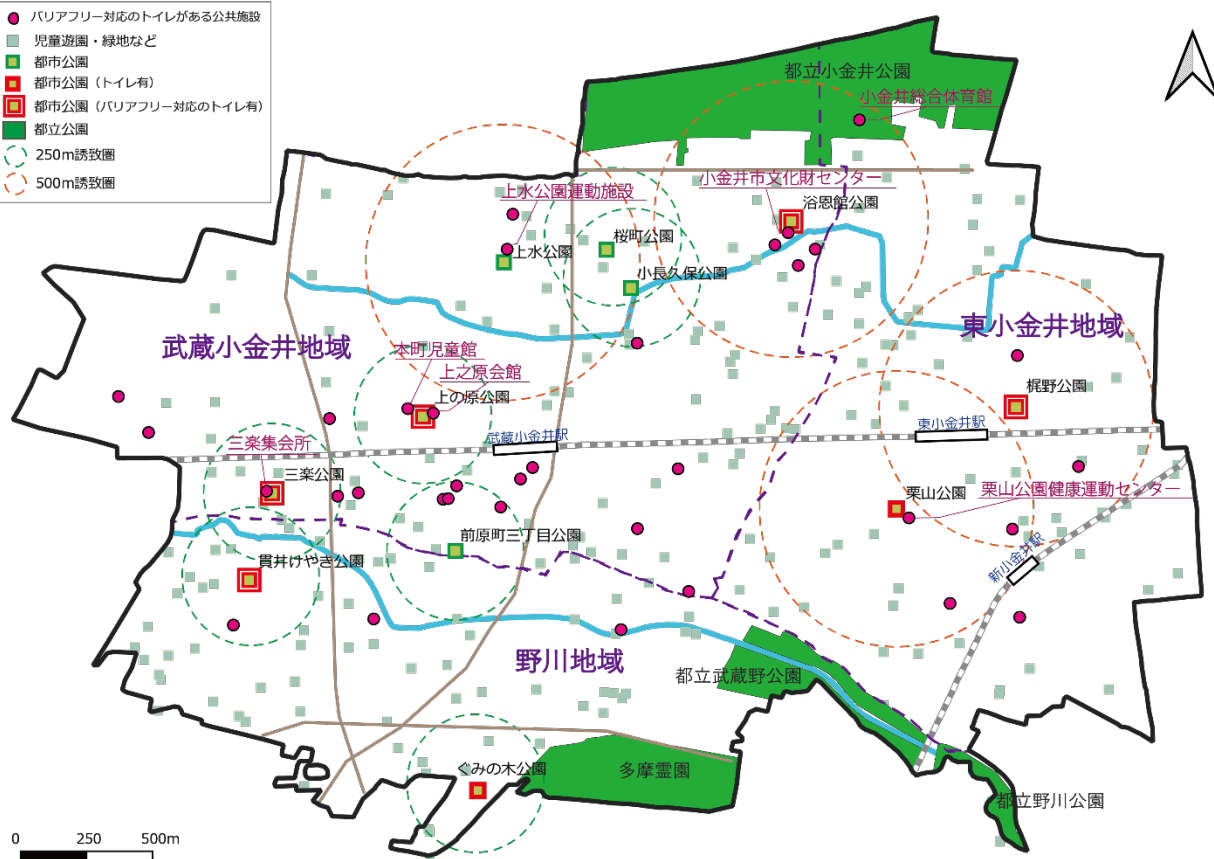
そのため私たちは、公園内の周辺設備の整備・改修や公園周辺の公共施設の配置状況も考慮しながら、インクルーシブな遊び場整備を検討していきたいと考えています。

◆ バリアフリー対応のトイレがある公園は？

<市が管理する公園のトイレのバリアフリー対応状況>

【凡例】

- バリアフリー対応のトイレがある公共施設
- 児童遊園・緑地など
- 都市公園
- 都市公園（トイレ有）
- 都市公園（バリアフリー対応のトイレ有）
- 都立公園
- 250m誘致圏
- 500m誘致圏



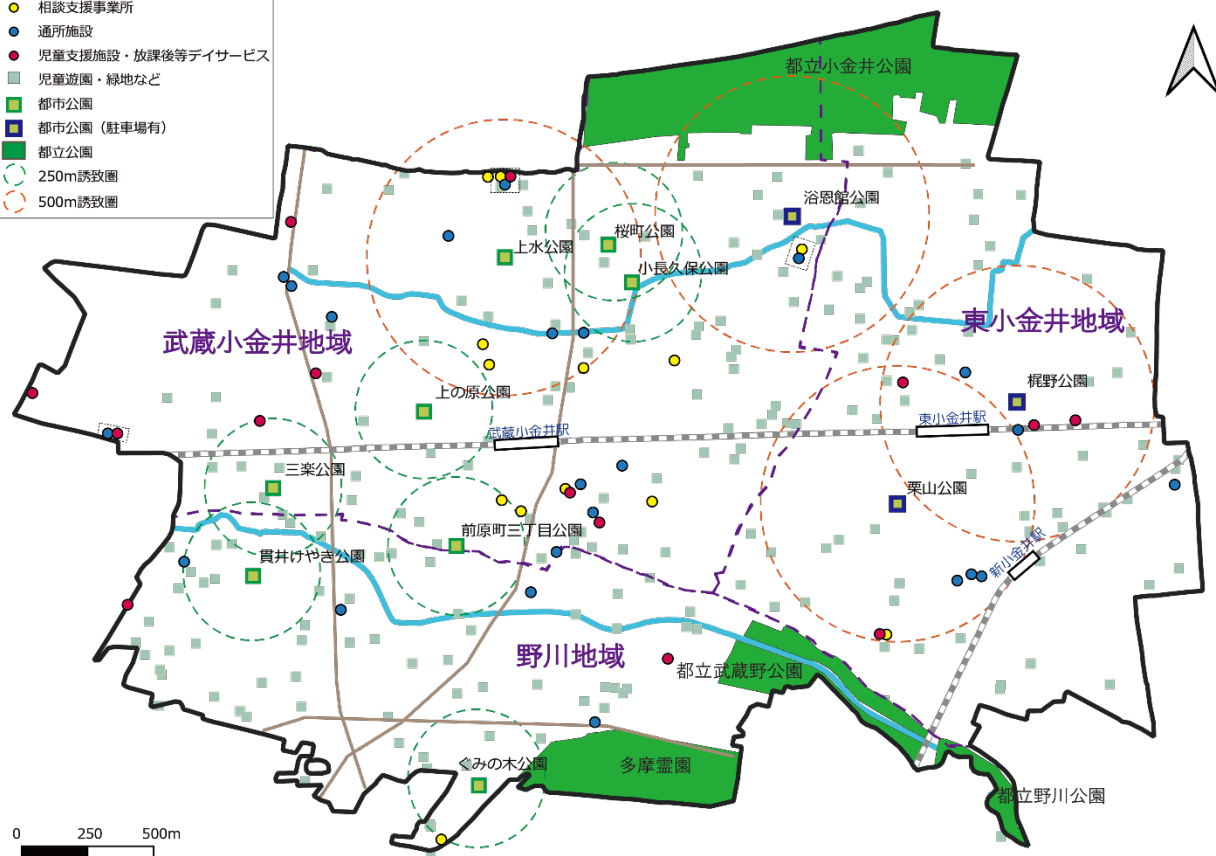
- 現在、トイレが整備されている市立公園は7公園です。そのうち、バリアフリー対応のトイレが整備されているのは、浴恩館公園、梶野公園、上の原公園、三楽公園、貫井けやき公園の5公園です。
- 栗山公園・ぐみの木公園のトイレは、令和8年度・9年度にそれぞれ再整備が予定されています。
- 上水公園にはトイレは整備されていませんが、上水公園運動施設内にバリアフリー対応のトイレが整備されています。同様に、隣接する公共施設内にバリアフリー対応のトイレが整備されている公園が複数あります。

◆ 駐車場のある公園は？

<市が管理する公園の駐車場整備状況>

【凡例】

- 相談支援事業所
- 通所施設
- 児童支援施設・放課後等デイサービス
- 児童遊園・緑地など
- 都市公園
- 都市公園（駐車場有）
- 都立公園
- 250m誘致圏
- 500m誘致圏



- 駐車場が整備されている市立公園は、市内東側の浴恩館公園、梶野公園、栗山公園の3公園のみとなっており、栗山公園は栗山公園健康運動センター利用者用の駐車場となっています。
- いずれの駐車場も駐車台数は1～2台となっています。



梶野公園の障がい者用駐車場（2台）